

ヤング賞



《ハートの洞窟》溜畑 李乃娃（奄美市）

[評]
楽しみながら撮影したんだ、とよく伝わる。洞窟の出口にはハート形の青空が待ち受ける。その先に見える手の演出は、何にしてもご機嫌だ。若者の冒険心と探究心に満ち満ちた一枚。まさに今しか撮れない。

[入選・賞候補] ※受付順

上田雄哉（兵庫県）前沙織（伊仙町）成実（奄美市）山田素義（兵庫県）奥昭仁（奄美市）中山浩彰（奄美市）此垣内丈二（奄美市）稲村真矢（奄美市）菊野夏音（奄美市）前田純花（奄美市）清正鈴之介（奄美市）諏訪結音（奄美市）森山聖也（東京都）幸昂作（東京都）隈元香里（奄美市）中間勝朗（熊本県）寺岡勇泰（奄美市）里村強志（宇検村）積信一（奄美市）深田譲（奄美市）YokoOhyes!（龍郷町）藤田悠聖（徳之島町）西玲奈（大阪府）川口晋作（東京都）前島沙綾（奄美市）彩音（奄美市）三浦里穂子（徳之島町）RINALDI CRESTOPHER（徳之島町）ROCKY ARAKI（埼玉県）川崎聖一郎（瀬戸内町）

[入選] ※受付順

佐久間直美（神奈川県）上田雄哉（兵庫県※2点入選）吉田辰男（奄美市※2点入選）河本明日香（奄美市）前沙織（伊仙町）勇以都雄（喜界町）武ちとせ（奄美市）森田和博（奄美市）齊藤憲一（奄美市）細谷和希（瀬戸内町）土屋尚幸（奄美市※2点入選）川口圭子（奄美市）崎田武志（奄美市※2点入選）成実（奄美市）西保吉（鹿児島市）中速男（奄美市）沖政仁（奄美市）沖恵里子（奄美市）冨居ゆかり（喜界町※3点入選）山田素義（兵庫県）奥昭仁（奄美市）森山蘭（奄美市※2点入選）向美芳（奄美市）中嶋哲也（東京都※3点入選）増山さくら（東京都）屋宮央哉（奄美市※2点入選）山畑海勝（瀬戸内町）中山浩彰（奄美市）此垣内丈二（奄美市※2点入選）松岡由紀（伊仙町）稲村真矢（奄美市※2点入選）荒川浩亮（奄美市）児玉一石（奄美市）森俐穂（奄美市）牧原史和（奄美市）川元優雨（奄美市）當原心美（奄美市※2点入選）鈴木明（奄美市）峯京太郎（宇検村）永田羽音（奄美市）岸田苺子（龍郷町）中宮弘夢（奄美市）山田心南（龍郷町※2点入選）長谷場結花（龍郷町）中蘭結衣（奄美市）福田花（龍郷町）森田涼必（奄美市）清正鈴之介（奄美市）碓山咲（龍郷町）豊島陽（奄美市）高井芽生（奄美市）二瓶成（龍郷町）平井隆（奄美市※3点入選）中篤（奄美市）中勉（奄美市）徳田美加子（徳之島町）幸昂作（東京都※2点入選）akubi（知名町※2点入選）大津卓也（奄美市）中間勝朗（熊本県）寺岡勇泰（奄美市）大岡真作（宇検村）阿多石めぐみ（熊本県）大郷寛子（熊本県）泉誠志郎（奄美市）高理沙（龍郷町※2点入選）田畑より子（奄美市※2点入選）榎谷寿治（奄美市）三宅環（鹿児島市）積信一（奄美市）榮乃愛（龍郷町）金城由江（奄美市）YokoOhyes!（龍郷町）藤田悠聖（徳之島町）前島創一朗（奄美市）前島沙綾（奄美市）前島創真（奄美市）RINALDI CRESTOPHER（徳之島町）松岡弘晃（高知県）渡辺あや子（北海道）

[審査総評]

第3回を迎えた「奄美を写す写真展」。前回は上回る数の作品が集まり、見応えのある審査になった。それぞれに思い入れのある秀作が全国から寄せられた。多士済々な作品群には、いつものあの日常や風景がこんなふうに表示できるのかと改めて驚かされた。

近年はスマートフォンやSNSの普及で、写真を撮る行為が誰にでもできる手軽なものになった。時代が変われば、動向も変化する。人と写真の関係も時代に合わせて進化しているのだと気づかされた。

本展の特長は、画像加工ができるという自由さにある。身の回りの景色を見つめ直し、わずかなアイデアを加えるだけで、今までにない作品が生まれる可能性がある。画像加工は一つの手段に過ぎないが、それで島や奄美に対する表現が豊かになったことには意義もある。粒ぞろいの写真たちが、個々の技術や価値観、感性をアップデートする一助になれば幸いだ。（審査員長 青木良貴）

第3回奄美を写す写真展

主催 奄美を写す写真展実行委員会
共催 奄美群島広域事務組合（鹿児島県奄美パーク）
後援 （一社）奄美群島観光物産協会 奄美新聞社 南海日日新聞社 あまみエフエム ディ！ウェイヴ
事務局 田中一村記念美術館（電話 0997-55-2635 〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834）

第3回 奄美を写す写真展

会期 令和7年1月11日（土）～2月2日（日）※休館日 1月15日（水）
開館時間 9:00～18:00 ※入館は17:30まで
会場 田中一村記念美術館 企画展示室

大賞



《赤い土》園 こうじろう（知名町）

[評]
枯れたヒマワリ、赤土の彩色でまとめた配色が巧み。モノクロの背景が被写体のスケール感を増幅させる。一つ間違えれば平凡に終わる風景。作画が作品を強くした。繊細な表現力。作者の技量が素晴らしい。

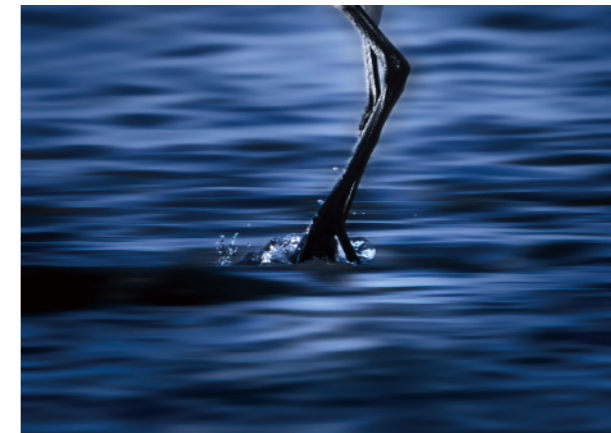
田中一村記念美術館賞



《波から逃げる弟》山田 心南 (龍郷町)

[評]
傾く人と水平線が人に動きを与え、臨場感を生み出している。特別な撮影でなくても、いい瞬間や表情、構図を正しく押さえれば作品に説得力は生まれる。弟の心を覗き見たような作品名がマッチする。

優秀賞



《Symphony No.9 "From the New World"》中山 浩彰 (奄美市)

[評]
水中に潜む獲物を鳥が静かに狙っているのだろうか。濃紺と黒のダブルトーンが緊張感を生む。作品名はドヴォルザークの交響曲「新世界より」。曲を聴きつつ鑑賞できれば状況は一変しそう。視点が斬新だ。



《魚いる！！》榮 乃愛 (龍郷町)

[評]
キラキラと輝く陽の光を遮るように海辺に浮かぶシルエットが、思い出のような風景を想起させる。人、海、背景が一つの空間にまとまっている。一心に魚を追う子どもの姿が自分の中に眠る記憶とリンクする。



《ムチモレ踊り in 湯湾釜》田畑 より子 (奄美市)

[評]
熱を帯びる様子がうまく捉えられている。夜の灯りの下、気炎を上げる唄者、勢いづく踊り手の一体感、祭りは最高潮と分かる。受け継ぐ文化への敬意が滲み出ている。モノクロに仕上げることで象徴性が増した。

佳作



《夜明けのおくりもの》秋元 愛 (福岡県)

[評]
朝焼けが葉っぱに落ちた白い花を照らす。光の加減が秀逸だ。柔らかな太陽光と植物が醸す深い色彩のコントラストが作品を力強くみせる。サガリバナの花言葉は「幸運が訪れる」。束の間がくれた贈り物だ。



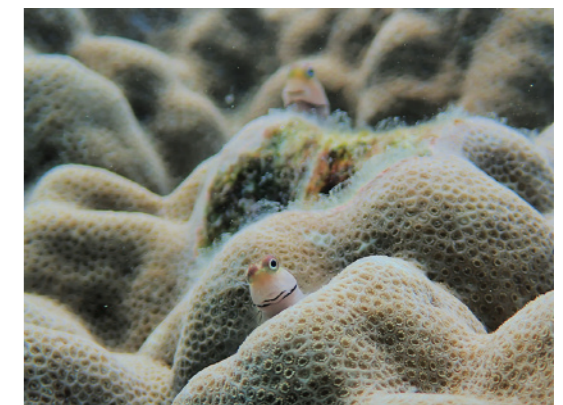
《朝散歩》積 信一 (奄美市)

[評]
挑戦と意欲が随所に見える。朝日の前で海に佇む男性、ごわごわとした雲、景色を映す鏡のような水面。全てが計算し尽くされた方程式のようで、いつもの光景とのギャップに驚く。撮影も画像処理もハイレベル。



《ネリヤカナやまわり舞台》大島 英世 (宇検村)

[評]
たなびく空、水平線に溶け込むリーフ、手前の海に透けるサンゴの環礁。天気や時間の条件、構図までがフォトジェニックだ。人の配置がみそ。非常にシンプルだが、伝えたい「舞台」の表現に成功している。



《十人十色・十魚十色》河本 明日香 (奄美市)

[評]
サンゴの合間から顔をのぞかせ、何か言いたげなハゼたち。一瞬、微笑むようにも見える偶発的な表情が心を和ませる。写真は狙いも大切だが、不可思議な魅力に惹かれる。ふいに突く唐突感がたまらない。